

埼玉県作業療法士会 広報誌



彩り

夏号
2024年度



- 私の声 「【連載】『認知症の主人について vol.3』 猪鼻伸代さん」
- 教えて県士会!! 「南部ブロック」
- Quality of Campus Life ～作業療法学生に聞いてみた～
等

No.16

— 作業療法に関わる全ての人たちの魅力を伝える情報誌 —

私の声

— 作業療法体験談 —

今回の話し手は、**猪鼻 伸代さん**

若年性アルツハイマー型認知症の夫をもつ猪鼻伸代さんによる計4回の連載企画。
第3回は、長年の介護の中で感じた苦労や葛藤、複雑な思いについて伺いました。
分かってはいても、受け入れ難いこと。愛する人が変わっていく現実。
それでも前向きなマインドを忘れない伸代さんの素直な言葉の数々は、
私たちに勇気を与えてくれます。

第3回 「葛藤」

◆ 変化

診断から10年目になり本には無い大変さがあると感じています。
中でも『主人から言葉の意味が抜けていく中で〈伝える〉〈動いてもらう〉事』。
例えば『ズボンに足を入れる』動作で〈足って?〉〈入れるって?〉と分からなくなったり、本人は足を動かしているつもりでも手が動いてしまったり、動作までに時間が掛かったりします。

◆ 3つの言葉

『認知症は子育ての逆に行く』と以前聞きました。その時は「そっか」と思った程度でしたが、色々な場面に直面すると、さらっと流れたその言葉が思い出され、それを頭と心で理解するのは難しい事と分かりました。

小さな子がスプーンを使い、おむつが取れておしゃべりをするようになる。
子育ては一つ一つの成長に喜びが伴いますがそれとは逆。
症状の変化に合わせてサポートを変える時、私の心のハードルを下げるという事が伴います。

期待がある内はハードルをなかなか下げられません。幾度か葛藤し、現状を受け入れられると「仕方ないんだ」と思えるようになります。葛藤して・受け入れて・心穏やかに慣れる日を待って……こんな繰り返しの中で見つけた3つの言葉があります。〈慣れ〉と〈繰り返し〉と〈前向きな諦め〉です。

繰り返しの中で慣れて行き、心に折り合いをつけながら前向きに諦めていく。
これも1つのコツになりました。



◆ 息子の葛藤

子供も心の葛藤があります。

息子が訪ねてくれ居間で主人と息子2人になった時、主人の中で何か混乱が生じ、息子の事を急に他人を見るような目で見、険しい顔で不満の言葉をぶつけたそうです。ほんの少し前まで穏やかだったのに……。

そんな主人を見て、

『俺のこと分かってないのかな』

『お父さんの中で、俺と過ごした思い出が消えてしまうのかな』

『俺が大切な息子ではなくて、他人になってしまうのかな』

という寂しさ・切なさ・悲しさを感じ、自宅に戻ってから奥さんの前で号泣したと後日教えてくれました。

日頃から〈日常の変化や今の様子・私の思い〉など子ども達に伝えて来ましたが、頭でわかっている事と自分の身に起こる事とは別の物なのだと思います。

息子は「お父さんに忘れたい意思がある訳では無いのだから、こういう事も含めて〈今のお父さん〉を受け止めていかなきゃね」と葛藤後の気持ちを話してくれました。

元々は穏やかで声を荒げるような人ではありませんでした。

時々見せる荒々しさやよそよそしさに戸惑い・切なくもなりますが主人と過ごした多くの時間があるから今介護と向き合えています。



【次回予告】

猪鼻伸代さん × 宇田英幸氏 × 広報誌編集部

(埼玉県作業療法士会 会長)

座談会

猪鼻伸代さんによる最後の連載では、猪鼻伸代さんとの座談会の様子をお届けします。

東西南北ブロック特集

教えて県士会!!

— 埼玉県作業療法士会ってどんなトコ? —

今回の担当ブロック

南部ブロック

埼玉県作業療法士会では、埼玉県を東西南北の4つのエリアに分け
地域支援活動や県士会活動を行なっています!



南部ブロック在籍人数: 457名

※2024年6月1日現在



ブロック活動の紹介

月一のオンラインミーティングでは「ゆるく、楽しく、ためになる」をモットーにzoomで行っています。臨床の悩み事相談も受けています。また、県内の各大学とコラボし、オープンキャンパスに参加して、作業療法をPRする「夏休み作業療法をもっと知ろうキャンペーン」や、「みんなで語ら night!」という若手向け臨床相談研修会の企画を行っています。その他、座談会参加者の皆さんのやりたいことをお聞きして、新規事業の開拓も行っています。

ブロック長の挨拶

皆さんこんにちは。南部ブロック長の犬塚です。南部ブロックは埼玉県の南(戸田、川口)~中央部(鴻巣)までをエリアとしています。所属人数も多く、多数の病院や施設が点在するエリアです。皆さんは普段職場で働いていると、対象者の方が退院後に利用する施設や、転院してきた病院はどんなところだったのかなど、なかなか知る機会がないのではないのでしょうか?ぜひ南部ブロックの月一のミーティングにご参加いただき、近隣施設の作業療法士と顔の見える関係を作りませんか?私自身も県士会の活動に参加することで、同じ悩みを共有する仲間が増え、日々刺激をもらっています。若い療法士にとっては職場の先輩以外に臨床のアドバイスをもらえる良い機会になると思います。興味のある方はぜひご参加下さい!

ブロックの特色

参加メンバーは身体障害領域(急性期・回復期)、精神障害領域(病院・クリニック)地域領域(訪問・通所・障害福祉)、作業療法養成校の教員と多岐に渡っており、小児、認知症、高次脳機能などの委員会に所属しているメンバーもいます。どの分野の困り事にも対応可能ですし、他の専門的な委員会よりも広く物事に取り組むこともできます。まず始めに県士会活動への参加を考えたときに最も間口の広いところがブロック活動だと思います。





Quality of Campus Life



～作業療法学生に聞いてみた～

Vol.3

埼玉県作業療法士会では、県内の養成校の学生さんが『広報部学生サポーター』として広報部で活動し作業療法の魅力を伝えています
そんな広報部学生サポーターさんにリアルな学生生活についてインタビューしてみました！

【今回の質問内容】

学校生活や臨床実習中のリフレッシュ方法は？



作業療法士になるには、養成校での学内の授業のほかに、医療機関や施設などの学外での臨床実習に参加する必要があります。臨床実習は、作業療法士として実務経験のある指導者の指導のもと、座学だけでは学べない作業療法の現場を見学・体験し、実践的なスキルを習得できる貴重な機会となります！



私のリフレッシュ方法は、お家で好きな音楽を聴いたり、好きなアーティストのMVやライブ映像を見てゆっくり過ごすことです。推しを見て、歌声を聴いて、目も耳も心も癒されています…。また、特に実習中は緊張している時間が長いので、好きなYouTubeを見てたくさん笑って肩の力を抜いてリラックスします。
平日は課題もあり睡眠時間が減ってしまうので、休みの日にはたくさん寝ることが一番のリフレッシュ方法だと思います！



はるちゃん



学校生活でのリフレッシュ方法は、友達と一緒に食事に行き話したり、カラオケやカフェ巡りしたりなど新しい場所の開拓をして気分転換をしています。一人で本を読んだりYouTubeを見たりして過ごしていることも多いです。実習中は、友達と会う機会が取れないため、時間を作り友達と電話で相談や報告をしたり、好きな音楽を聴きながら美味しい物を食べてたくさん睡眠を取ったりしてリフレッシュしています。



ゆうか



埼玉県作業療法士会広報部では、県内の作業療法の養成校に通う学生さんの中から学生さんのリアルを伝えてくれる『学生サポーター』を随時募集しています！

興味のある方は各養成校の先生に相談してみてね！

経験

埼玉の作業療法

作品

募

集

中



広報誌 『彩り』 では

埼玉県内の作業療法士の活動、作業療法の経験や作品を募集して埼玉の作業療法の魅力を広報誌として発信しています。

採用された方にはQUOカードをプレゼント!



みなさんの投稿お待ちしております!

★ 各コーナーの募集要項 ★

●ねえ、きて! (作業療法実録)

作業療法士がみなさんに送る、「わたしはこんな作業療法をやってるよ!」というお話を募集しています。

●私の声 (作業療法体験談)

今でも昔でも、あなたの作業療法の思い出を聞かせてください。きっと、それは誰かの励みや喜びになるでしょう。

●OT ギャラリー (作品投稿コーナー)

作業療法の中で制作した作品、趣味で作った作品…あなたの『自慢の一品』を大募集! 表紙に選ばれるかも! ?

≪投稿フォームで応募!≫

QR または URL から投稿フォームにアクセス! 必要事項を入力しご応募ください。

【 <https://business.form-mailer.jp/fms/b631815e129531> 】

※投稿フォームで応募後、広報部よりメールにてお返事させていただきます。

≪お問い合わせ≫

投稿をはじめ、広報誌に関して何かございましたら

埼玉県作業療法士会広報部専用メール【 saitama.ot.kouhou@gmail.com 】まで!



たくさんのご応募お待ちしております!